

ベストクラス選定理由書

作成者：佐藤優衣、白井俊介、告野雅子、中原竜彦、前澤拓、池田浩之

科目名称 心理統計研究法演習（昼間クラス）		（担当教員名： 秋光 恵子 ）
課 程 ： 大学院（修士）	開講時期 ： 前期	
授業形態 ： 演習	授業規模 ： 30人以下	
インタビュー対象教員名 秋光 恵子 （実施日時：2021年9月9日（木） ； 実施場所：Zoomによる実施 ）		
インタビュー対象受講者名 久恵 浩二、西村 敦子 （実施日時：2021年9月8日（水） ； 実施場所：Zoomによる実施 ）		
選定理由 本科目は、学校心理・学校健康教育・発達支援コースでの学修及び修士論文に向けた研究に必要な心理学の研究方法論や統計知識の基礎を習得するために設定された演習科目である。受講生の中でこれまでに心理学を専攻してきた方はほとんどおらず、この授業で学ぶ統計法の知識や心理学実験の方法や手順については、初めて学ぶことばかりである。また、コロナ禍でオンライン授業であったにも関わらず、授業アンケートで「資料がととも分かりやすく、もっと学びたいと思えた」「難しい問題に関しては、身近な内容で例えを示してくださるため、理解しやすかった」「一緒に受けた皆さんと、オンラインでありながらこの講義でとても仲良くなることができ、仲間づくりになった」といったコメントから、受講生の学習意欲向上が図られていたとともに受講生同士の対話を大切にし、1人ひとりが能動的に学ぶことができた点が高く評価されている。このような充実した学びが成立した要因として以下の特長が挙げられる。		
① 成長感覚の共有 ：本科目は心理統計・実験法という受講生にとって未知の領域であり、かつハードルの高い内容である。「わからなくてもどかしい」ことを現職教員が痛感することや教員から指名される緊張感を再認識する一方で、「わかった」という喜びや「統計に負けない」という強い思いを教員や受講生同士が共有することで、達成感や成長実感が得られる体験ができる。		
② 学習意義の明確さ ：本科目は修士論文での研究に直結するものであり、知識量が増えていくに従って、「先行研究が読めるようになった」「統計学への拒絶反応がなくなる」「自分の研究につながり、知識欲がさらに高まった」等、学んだ知識の有用性、実利性が直に表れる。		
③ 交流時間の設定 ：オンライン授業ではあったが、毎時間、課題を提示しグループディスカッションの時間を設定。課題のレベルが絶妙で、解決意欲を掻き立てられるとともに、年齢やこれまでの経験、立場といった条件が異なる学生同士が同じ目線で協力して課題解決を行える時間となった。また、グループディスカッションに教員も加わってくださることで、オンラインでも質問がしやすい状況で、教員、受講生同士の人間関係を構築できる時間にもなっている。		
インタビューにおいて、教員は「講義の到達目標も必要な水準まで達することを優先するのではなく、わかりやすさを重視してコンテンツの絞り込みなどを意識した」と語り、一方、受講生は、「厳選した資料を秋光先生が丁寧に説明してくれた。わからないことを共有でき、不安の払しょくにつながり、学びを深められる時間となった」と語った。「教える＝学ぶ」というしっかりとした枠組みの中で、教員と学生が協同しながら相互の信頼関係を築き上げ、それが受講生の主体的で深い学びにつながっていると考えられる。		